

## 江刺甚句まつり

# ステージ発表の 出演団体を募集

江刺甚句まつりのステージを飾ってみませんか。皆さんの日頃の活動の成果をおまつり広場のステージで発表し、一緒に祭りを盛り上げましょう。

■出演時間 5月4日(日)午前9時半～11時30分

※設営・撤収含み1団体40分以内

■出演料 無料

■申し込み方法 発表内容、団体名、参加人数、代表者の住所・氏名・電話(ファクス)番号・メールアドレスを明記の上、メールかファクスで申し込む

■申込期限 2月22日(日) (必着)



■その他 市内の団体に限る。応募多数の場合は実行委員会にて出演団体を決定。場合によっては出演時間を調整

■問い合わせ・申込先 江刺甚句まつり実行委員会事務局(江刺総合支所産業振興課内、内線221、☎0196-3476、✉sangyou-es@city.oshu.iwate.jp)

# IWATE奥州 ブレイブヒーローズ ～江刺冬の陣～

ローカルヒーローが一堂に会したショーとキャラクターグリーティングのイベント。各地から大集結したヒーローとの触れ合いで、みんなに夢と希望、勇気、そして元気を与えます。どうぞ会場にお越しください。

■問い合わせ=奥州商工会議所江刺支所(☎0196-2514)

■日時 2月19日(日)10:00～

■場所 江刺文化会館(ささらホール)、同ホール  
駐車場

■内容 ローカルヒーローキャラクターショー、ふれあい握手会、飲食ブース、ローカルヒーローグッズ販売、景品付お菓子まき



## 避難準備情報などの名称変更について

平成28年8月の台風10号による水害では、高齢者施設において「避難準備情報」の意味するところが伝わらず甚大な被害が発生しました。国は、高齢者などが避難を開始する段階であることを明確に伝わるよう、以下のとおり避難情報の名称を変更しました。市では、今後避難が必要な場合、変更後の新たな名称により避難情報を発信します。

■問い合わせ=本庁危機管理課防災保安係(内線223)

緊急度	変更前の名称	変更後の名称	とるべき行動
高	避難指示	避難指示(緊急)	災害による危険が非常に高まっている状況です。 <b>直ちに避難をしてください。</b> 外が危険な場合は、屋内の高い場所などへ直ちに避難してください。
中	避難勧告	避難勧告	災害による被害が予想される状況です。速やかに避難を開始してください。外が危険な場合は、屋内の高い場所などへ速やかに避難してください。
低	避難準備情報	避難準備・高齢者等避難開始	<b>避難に時間を要する人(高齢者や体の不自由な人など)は避難を開始してください。</b> それ以外の人は避難の準備を行い、気象情報に注意してください。危険だと思ったら早めに避難を開始してください。

■避難情報の発信手段 避難情報は、緊急速報メール、テレビ、ラジオ、市ホームページ、ツイッター、フェイスブック、防災行政無線(衣川区)、有線放送(前沢区)、広報車などでお知らせします。



# 次世代に 守り継ぐもの

～日高火防祭と歩む奥州の歴史～

奥州を代表する祭りの一つ「日高火防祭」。町組ごとに飾りたてたはやし屋台が古趣あふれる音曲にあわせて街を練り歩きます。『豪華絢爛』とはまさにこのこと。中でもひとときわ目を引くのが登場するお人形さん。その可愛さと艶やかさに魅せられた人たちと、祭りを支える人たちが守り継ぐ思いを紹介します。

■問い合わせ=本庁商業観光課観光物産係(内線272)



平成24年に横町組、28年に袋町組に姉妹で参加した(左から)小野寺周ちゃん(9)・環ちゃん(8)姉妹

昨年、袋町組の屋台にお人形さんの一人として花を添えた環ちゃん。ひとつ上の姉周ちゃんと同じ舞台上に立ちました。祖父が作ってくれた斜め台に、古くからある太鼓を乗せ練習を繰り返したのは1

### 成功という言葉を胸に

二人目の子も女の子。次女の環ちゃんが生まれたとき、姉妹が寄り添う姿を見て母は、二人がはやし屋台に登場する姿を思い描きました。この子たちを屋台に乗せてあげたい。子どものころの自身の記憶が、自然とそんな思いにさせたのです。そして「この子たちが母になったとき、同じ気持ちになってくれたら：ねえ」と環ちゃんにそっと語り掛けました。

### 母から娘への物語

年前の春のこと。「初め難しかった太鼓打ちも、慣れて楽しく感じられるようになった。本番が成功できて本当に良かった。また乗ってみたい」と思い出を話してくれました。幼い環ちゃんが語った「成功」の言葉。それは、お人形さんを支える人たちが願った言葉です。伝統を守り継ぐ思いは、幼い子どもにも届いていました。

### いまを担う保存会の役割

「社会の授業の一環として、保存会の活動を紹介して欲しい」。水沢小学校からの要請を受け実現したのが「変わるわたしたちのくらし」受けつがれる行事」と題した、祭りの歴史や受け継ぐ人々の思いに気付くことを狙いとした特別学習。3年生の児童を前に、日高神社火防祭保存会の及川右会長はこう呼び掛けます。「350年も続く祭りの一部を、いま私たちが担っている。皆さんが参加して、そして大人になっても同じ気持ちでいてくれたら、この祭りはこれからも続けていくことができるだろう」。

### 祭りを知った子どもたち

音楽室に響いたお囃子の音色。間近で聴くことは少ない児童たちでも、祭りの光景を思い描くのは容易だったようです。「見たことはあるけど、その歴史は知らなかった。祭りのことを知ることでできてうれしかった」。今回の学習でその歴史と文化を知り、そして感じることで、間もなくやってくる祭りへの期待感を膨らませていました。

私たちの住むまちには、いまでも続く多くの祭りがあります。祭りを伝えることは、その歴史を紐解くということ。祭りが魅せる景色の裏には、そのまちを守り続けた人たちの思いがあります。祭りを続けることの意味を、その祭りで感じてみたい。日高火防祭は、奥州の将来を歴史づくる祭りのひとつです。

●日高火防祭では、はやし屋台の登場者を募集しています。詳しくは本庁商業観光課観光物産係(内線272)、(一社)市観光物産協会(☎0196-7800)までお問い合わせください。



保存会によるお囃子の演奏を聴く児童たち